



## 次世代を担う子どもたちのために…

福井県小学校長会

会長 山口 満



新しい年号「令和」がスタートし、四か月が経過しました。各学校におかれましては、学校運営の計画（スクールプラン）に基づき、共通理解を図りながら、組織を挙げてその具現化への取り組みを推進されているところだと思います。私たち福井県小学校長会は、その時その時の課題に真剣に向き合い、大きな成果を積み重ねてきました。特に、長年にわたって取り組んできた、授業改善や授業研究を中心とした教員の資質能力の向上は、本県の子どもたちの学力と体力の向上、生活習慣の定着に大きくつながってきたと確信します。また、教職員一人一人がお互いに切磋琢磨し、熱意をもって実践を共有化していることは、本県の教育の誇れるところであり、教育のレベルを向上させてきた土台となっていると言えます。それらを根底から支え、指導を積み重ねて、教育環境を実りあるものにしてきたことは、私たち校長会の誇りと言えるのではないのでしょうか。

さて、今年度は、次の三つの課題に取り組んでいます。まず、一つ目は、新学習指導要領への対応です。移行措置二年目となり、全面実施に向けて見通しをもち、カリキュラム・マネジメントを進めていくとても大切な一年となります。本県の将来を担う子どもたちには、変化の激しい社会であっても、主体的に考えて行動し、価値を創造することに喜びを感じ、自分の生き方に自信をもちながら、ふるさとを大切にすることを高めていってほしいと思います。

二つ目は、学校における働き方改革と業務改善の取り組みです。一人一人の教員が自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることが学校の業務改善の目的であり、もてる力量を十分に発揮し、教育活動の質を向上させられるようにすることも、校長の大切な仕事です。

三つ目は、教育研究大会の充実です。令和2年10月には、第55回東海北陸地区連合小学校長会教育研究福井大会が、フェニックスプラザを主会場として開催されます。この東陸福井大会開催に向けて、開催準備を進めるとともに、教育課題に関する研究内容の深化、充実を図り、東陸福井大会での研究発表につなげていけるよう、一致団結して取り組んでいきたいと思っています。

私たち校長の使命は、今、求められる教育内容に丁寧に向き合いながらしっかりと学校経営を行うことで、次世代を担う本県の子どもたちのために、変化の激しい社会を生き抜くための多様な能力や資質を身につけさせることです。そのためにも私たち校長同士が、より一層、情報と実践を共有し合い、課題を明確にして、時代に対応できる学校経営につなげていくことが大切です。

今年度も、各校長が強くリーダーシップを発揮し、これらの課題に取り組みながら、本県独自の教育を創り上げていく校長会であり続けたいと考えています。

令和元年度

# 福井県小学校長活動方針

福井県小学校長会は、結成以来、本県の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに教育諸条件の整備・充実に努め、多大な成果をあげてきている。

今日、知識基盤社会への新たな進展やグローバル化・情報化の進行、急激に進む少子高齢化等により、様々な改革と対応が求められている。小学校教育においても、学習指導要領の改訂に伴い激しく変化する社会の中で、自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力の育成が求められている。本県においても「ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え行動する力を育む」ことを基本理念とする「福井県教育振興基本計画」に沿って、福井らしさを生かした教育のさらなる向上を目指した施策を推進している。また、令和2年度からの新たな「教育振興基本計画」の改正に向けて準備を進めている。

こうした中であって、学校は、新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を身につけた日本人の育成を目指すために、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を実現するため、われわれ校長は、明確なビジョンを掲げ、学校組織の活性化を図り、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善に努めなければならない。また、「福井型18年教育」「ていねいな教育」「きたえる教育」により、子どもたちに夢や希望を実現する「突破力」を身につけさせることも求められている。

さらに、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す英語教育の拡充・強化、いじめ等問題行動の防止に向けた人権教育と道徳の教科化、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など、対応すべき重要課題が山積している。また、危機管理体制の見直し、安全指導の充実、関係機関との連携を強化した防災教育の推進も喫緊の課題となっている。

このような状況の中で、校長は、現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果をあげていかななくてはならない。私たちは、組織の総力をあげて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要がある。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任のもとに、未来社会に夢と希望をもち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努めなければならない。

以上の方針をふまえ、本年度は次の活動を重点として推進する。

## 本年度の活動の重点

### 1 学校経営の充実

校長自ら研鑽に励み、学校経営上の課題を明確にし、経営方針確立のもと、家庭・地域社会との連携、異校種間連携を密にして、危機管理体制の一層の充実により児童の安全確保を最優先に、創意ある教育活動の実現により、生きる力の育成を推進し、家庭・地域から信頼される学校経営の充実に努める。

### 2 研究活動の充実

学習指導要領改訂に伴い、研究主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に向けて研究に努め、その成果を学校経営で具現化する。

また、東海・北陸地区連合小学校長会教育研究富山大会において、その成果を発表するとともに、全国連合小学校長会教育研究秋田大会に参加し、研究内容のさらなる深化を図る。

### 3 「生きる力」を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善

学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じて思考力・判断力・表現力等の育成を図る。また、言語活動や体験活動の充実により、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え行動する力を身に付ける教育を推進し、協働して課題解決する力と確かな学力を育む授業改善に努め、生きる力の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善を着実に進める。さらに、豊かな心を育む道徳教育の充実・改善を図り、心の教育を一層推進する。また、児童理解を深め、いじめ・不登校などに関わる課題の解決のために、いじめ防止基本方針や校内組織の整備、教育相談体制の充実を図ることや体力の向上など、健やかな心身の育成に努めるとともに、特別支援教育の充実を図り、一人一人の自己実現を目指す教育の推進する。

### 4 教職員の資質・能力の向上

福井県教員育成指標をもとに、教職員に適切な指導助言を行い、学校内外の研修体制の充実を図りながら、学級経営、教科指導、生徒指導などの実践的指導力を高めるとともに、教職員人事評価システムを活用して、教職員一人一人に専門職としての自信と誇りを育む。また、新採用教員が増加する時期をむかえ、より一層、若手教員の資質・能力の向上を図ることに努める。

## 5 教職員の定数や処遇の改善

子どもたちと向き合う時間の確保、質の高い教育活動の実現に向けて、教育諸条件の整備や義務教育費国庫負担制度の堅持および義務教育諸学校の教育職員の人材確保に関する特別措置法の堅持を強く求めるとともに、これらの精神を十分尊重し、管理職を含む全ての教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるよう、要望活動の強化に努める。

これらの活動を推進するために、東海・北陸地区および全国連合小学校長会との連携を一層密にして組織活動の充実に努めるとともに、関係諸機関・団体とも連携し、小学校教育に対する正しい世論の喚起に努める。

## 主な委員会と活動事項

本年度の活動方針に基づき、本会の事業遂行のために次の専門委員会および特別委員会を設置し、事業を推進する。

### (1) 専門委員会

#### ◇人事行財政対策委員会

義務教育費国庫負担制度の堅持、教職員の定数改善、少人数学級の拡大を目指す学級編制基準見直しの促進、退職時の処遇の充実等のため対策・要請活動を行う。

#### ◇調査研究委員会

今日の学校教育の課題や学校経営上の諸問題について調査研究し、対策に資する。

#### ◇教育研究委員会

研究主題を設定し、研究活動の推進および教育研究大会の企画推進を行う。

#### ◇編集広報委員会

「会報」の発行とホームページの更新により、情報の提供、成果の報告等を行う。

### (2) 特別委員会

#### ◇第55回東海・北陸地区連合小学校長会教育研究 福井大会実行委員会

令和2年10月に本県において開催する福井大会の準備を行う。





### 人事行財政対策委員会

(要請活動・人対資料)

4月17日	○第1回専門委員会 (第1回小学校人対委員会) 正・副委員長選出、活動方針・年間活動計画の協議
5月	○県教委への「教育長と語る会」、実施日程の依頼
5月	○第1回小中合同人対役員会 正・副部会長の選出 活動方針・活動計画の協議
7月 1日	○「県教育長と語る会」に向けて、各郡市でアンケート等をもとに 提言内容の検討
7月 1日	○第2回小学校人対委員会 (第1回小中合同人対委員会)
7月 1日	○「県教育長と語る会」の事前打合せ (話題、提言等について)
8月 下旬	○県教育長と語る会
9月	○「語る会」についての報告
10月 1日	○全連小人事対策研究協議会参加(委員長)
1月	○第3回小学校人対委員会 (第2回小中合同人対委員会) 全連小報告 次年度に向けての課題の協議

### 調査研究委員会

(実態調査・調査報告)(全連小調査)

4月17日	○第1回専門委員会 正・副委員長選出 年間事業計画の作成 調査テーマ、調査項目について
5月	○各郡市において調査項目、調査内容について希望調査実施
5月23日	○第2回専門委員会 調査研究項目・内容の決定
6月	○各郡市において調査の実施及び集計
8月23日	○第3回専門委員会 調査結果の分析と考察1
10月 1日	○全連小調査研究協議会参加(委員長)

11月	○第4回専門委員会 印刷原稿校正
12月	○報告書のデータ配信(HP) ○各市町校長会で調査概要報告会実施

### 教育研究委員会

(研究推進)

4月17日	○第1回専門委員会 正・副委員長選出 年間事業計画について 県・東陸・全国研究大会について
5月 8日	○東陸、全連小大会の参加者報告
6月 上旬	○第2回専門委員会 県小学校長教育研究若狭大会について 東陸連小富山大会について
8月21日	第71回県小学校長教育研究若狭大会(小浜市)
10月10日	東陸連小富山大会(～11日)
10月17日	全連小秋田大会(～18日)
1月23日	東陸連小理事研修会(～24日)
2月	○第3回専門委員会 令和元年度若狭大会反省 東陸、全国大会概要報告 令和2年度研究大会の概要

### 編集広報委員会

(会報発行)

4月17日	○第1回専門委員会 正・副委員長選出、活動方針 各郡市原稿割当の確認・決定等 「会報」編集計画
5月 上旬	○「会報」109号原稿依頼
6月17日	HP更新①
7月 2日	○全連小広報担当者連絡会参加(委員長)
7月12日	○一次校正締切
8月 7日	○第1回編集企画会議 二次校正、編集作業
8月 29日	○第2回専門委員会
9月 2日	○「会報」109号発行
9月 中旬	○「会報」110号原稿依頼
9月 下旬	HP更新②
12月 6日	○一次校正締切
1月 上旬	○第2回編集企画会議 二次校正、編集作業
2月 中旬	○第3回専門委員会 HP更新③
2月 下旬	○「会報」110号発行

## 校 長 講 話

## 童謡「あめふり」から

## 幸せになる方法教えます

福井市宝永小学校長  
吉田和美

勝山市立村岡小学校長  
齋藤雅代

最近、じめじめした蒸し暑い日が多いですね。こんな季節を何というか知っていますか。そう、「梅雨(つゆ)、または(ばいう)」と言います。梅雨になると雨の日も多いですが、今日はそんな雨に関係のある歌を紹介しましょう。「あめふり」という曲です。皆さん知っていますか。(1番のみ曲を流す)では、一緒に歌ってみましょう。

「あめあめ ふれふれ かあさんが  
じゃのめで おむかえ うれしいな  
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン」  
この歌の言葉に出てくる「じゃのめがさ」って知っていますか。そう、この傘のことを言います。(実物を見せる。写真でも良い。)

実は、この歌は2番から5番まであります。知っている人いますか。リズムは簡単なので一緒に歌ってみましょう。(曲を流す)



2番です。

「かけましょ かばんを かあさんの  
あとから ゆこゆこ かねがなる  
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン」  
3番。

「あらあら あの子は ずぶぬれだ  
やなぎの ねもとで ないている  
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン」  
(曲をとめる)

さあ、この後どう続くと思いますか。4番5番の歌詞はこうなっています。(再び曲を流す)

4番

「かあさん ほくのを  
かしましよか  
きみきみ このかさ  
さしたまえ  
ピッチピッチ チャップ  
チャップ ランランラン」  
5番



「ほくなら いいんだ かあさんの  
おおきな じゃのめに はいってく  
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン  
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン」

校長先生は、この4番5番の歌詞を知って、なんて素敵な歌なんだろうと思いました。この歌詞を作ったのは北原白秋さんです。きっと北原白秋さんは、「困っている人を助けてあげましょう。」「小さい子には親切にしましょう。」「と呼びかけていると思うのです。皆さんはどう感じましたか。

この歌に出てくるような、思いやりのある、小さい学年の人に親切にできる宝永っ子がたくさんになることを願っています。

今日は「幸せ」についてお話をします。みなさんは「幸せ」になるためには、何が大切だと思いますか？

お金がたくさんあることでしょうか？

ゲームをずっとしていただけることでしょうか？

おいしい物をおなかいっぱい食べることでしょうか？

実はどれも正解ですが、これだけで本当に幸せなのか？疑ってしまいますね。

実は、物やお金がなくても幸せでいられることはできるのです。今日は校長先生が、「幸せになる方法」を教えてください。

それは、ここ(胸を指さす)で決まります。そう、心です。あるものごとや人を見たとき、よいところから考える人と悪いところから考える人がいます。この場合、よいところから考える人のほうが、断然幸せになれます。それはこういうことです。

たとえば、授業中にいつもふざける子がいたとします。

「もう！〇〇さんは、むかつくな～！何でいつもうるさいんやろう！」と思う人。この人はこのあと、ぷんぷん怒って、何をしてもおもしろくありませんね。友だちとけんかをしてしまうかもしれませぬ。しかし、「〇〇さんのおかげで、いつもこのクラスは明るいなあ！」と試してみたらどうでしょう？それだけで、心が明るくなって、ニコニコ笑顔でいられます。注意する声も優しい声になって、〇〇さんも、素直に聞いてくれるかもしれませぬ。

考え方一つで、こんなにあとの気持ちが変わっていきます。どちらが幸せなのか、みなさん、わかりますね？

「幸せ」とは、心の中が落ちついて笑顔でいられることです。自分のいいところをいっぱい知っている友達や家族が近くにいることです。これはお金では買えないものです。

幸せになる方法は、ものごとを、「よい方から考える」ことです。腹が立ったとき、悲しい思いをしたとき、「別の考え方」はないかな？と、今日の校長先生のお話を思い出してください。みんなの心一つで幸せになれるのです。校長先生は、みなさんが幸せな笑顔いっぱいのむろこっ子になることを願っています。



## 「ゆたかな子」になるために

あわら市芦原小学校長  
島田 充 寿

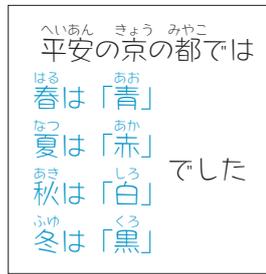
今日はみなさんにイメージカラーを聞きます。イメージカラーとは、その言葉を聞いた時にすぐ心に思い浮かぶ色のことです。では、今からある言葉を言うので、そのイメージカラーを考えましょう。先生方もいっしょに考えてみてください。

では「春」といえば? 「夏」といえば?

「秋」といえば? 「冬」といえば?

人によって違い、全員同じとはなりませんでしたが、同じ色を答えた人もたくさんいました。今、みなさんが答えてくれた色が、令和の時代、あわらに住む人の世界観です。

さて、今から1200年ほど前、平安時代の京の都、今の京都市に住んでいた人ではどうだったでしょうか。実は「春は青」「夏は赤」「秋は白」「冬は黒」がイメージカラーだったんです。これらと似た感じ方をしていた人もいましたが、今の私たちとはかなりちがいますね。



小さい学年には、少し難しいですが、四方を司る四神、東…「青龍」・南…「朱(赤)雀」・西…「白虎」・北…「玄(黒)武」にも季節のイメージカラー4色が使われています。6年生は修学旅行で、都の中心を南北に貫く「朱雀大路」という言葉も教えていただきましたね。昔の人にとって、この4色は大きな意味があったのかもしれない。

みなさんは、「かぐや姫」のお話はよく知っていますね。かぐや姫は月から地球に訪れた姫で、月をじっと眺める様子が描かれています。皇子らの冒険も描かれています。遠く知らない場所に想像の世界をふくらませたり、美しいものにあこがれ、それを手に入れたいと願ったりすること。美しい十五夜の月を愛でること。これらは、今も昔も変わらない感じ方ではないでしょうか。

昔から今に伝わるお話を古典といいます。その古典の世界にふれて、今の時代と似ているところや違うところを感じたり、現代まで受け継がれていることを知ったりするのも楽しいですね。あわら市は「ちはやふる」ゆかりの街でもあります。百人一首にも親しんで昔の文学、昔の人の心や感じ方にふれてみましょう。覚えた歌は、今年も校長室で聞かせてください。

古典に限らず読書には「知識を増やしてくれる。」「言葉の力がついて、よい文章が書けるようになる。」「いろいろな感じ方ができ、心を成長させられる。」と、いいところがいっぱいあると私は思います。これからも幅広い読書を通していろいろな世界にふれ、学校目標にもある「ゆたかな子」になりましょう。

## 「ありがとう」

敦賀市立粟野小学校長  
濱野 隆

反対言葉というのを知っていますか?

「長い」の反対は?

「低い」の反対は?

そうですね。それでは「ありがとう」の反対言葉は何でしょう。「ありがとう」と言われると「どういたしまして」って応えるから「どういたしまして」かな? 「ありがとう」って言われると優しい気持ちになるから、言われると嫌な気持ちになる「嫌い」っていう言葉かな?

正解は、「当たり前」です。「そんなこと当然!」「そんなん普通や」と思っていることに対して、「ありがとう」の気持ちが湧いてきません。だから「ありがとう」の反対言葉は「当たり前」なんです。

でも、何が当然のことなのか、普通のことなのか、当たりのことなのか、考えてみると難しいことなんです。例えば、大津市では歩道で信号待ちをしていた散歩中の園児の列に車が突っ込んできて、多くの園児が亡くなりました。「散歩に行くぞ!」と元気に園を出たら、「楽しかったね」とみんなで戻ってくるのは普通のことですね。でも、それが残念ながら、みんなで戻ることができませんでした。

神奈川県では、「いってきます」と、朝、元気に家を出て、学校のお迎えのバスを待っていた子どもたち。夕方には、「ただいま」と明るい笑顔で家に帰ってくるはずだったのに、思ってもみない事件に出遭ってしまい、帰らぬ人が出てしまいました。

大雨や地震で、今まで普通に暮らしていた家がなくなったり、友達がなくなったり、当然のようにできていたことができなくなったりした人もたくさんいます。

だから、みんなが「普通のこと」と思っていることは、とてもありがたいこと、幸せなことなのです。普通に過ごせること、みんなといっしょにいられること、食べることができること、それはみんな「ありがとう」と感謝する気持ちをもたないといけないことです。

「ありがとう」と言える人は、人の優しさに気がつける人です。人に支えてもらっていることを知っている人です。そして「ありがとう」と言える人は、周りの人を幸せにできる人です。

「ありがとう」をいっぱい言える人になって、自分も、周りの人も幸せになっていきましょう。みんなで「ありがとう」の言葉が飛び交う学校にしていきましょう。



## 新任校長の言葉

### 地域の中で育てる

福井市一乗小学校長 岩崎 昭彦

令和元年5月20日、朝倉氏遺跡などの文化財を物語にまとめた「400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～」が、文化庁から「日本遺産」として認定されました。

この朝倉氏遺跡を含めた一乗地区に立地する、歴史のある学校に赴任し、歴史の重みを感じています。そして、地域の中でどのように子供たちを育てていくのかを模索しています。

しかし、一乗地区に生まれ育った子供たちにとっては、この文化遺産や自然が当たり前の風景であり、その素晴らしさをあまり感じていないようです。そこで、この素晴らしい自然と歴史と文化を誇りに感じ、ふるさとを愛する子を育てるため、本校では、教育課程の中に地区の自然や歴史・文化をたくさん取り入れてきました。ふるさとをもう一度見つめ直し、保護者や地域の方の協力を得ながら、子供たちを育てるとともに、学校が地域活性化の拠点になればと思います。

園児・児童合わせて32名の小規模校ですが、豊かな自然の中で、様々な人と関わり合って健やかな心と体を育み、歴史と文化に触れながら深い学びを創り出していきたいです。そして、子供たちが、戦国武将のように大きな夢と目標をもち、地域の中で生き生きとした学校生活を送ってほしいと強く願います。

### 一点突破 全面展開

大野市阪谷小学校長 青木 知代

そもそも学校の使命とは何か。時代の変化の中で、学校のミッション・存在意義を考えた時、「貢献」というキーワードを新任校長研修の講師である浅野良一先生から教えていただいた。「学校経営とは貢献だ。」なるほど！スクールプランを見て自分の貢献度を確かめた。

やりたいことは多岐に渡っているが、私の学校経営における「一点突破 全面展開」は、学力向上を横（全国学力・学習状況調査の分析等）と縦（個の児童の経年分析等）で研究し、児童の学びや教師の授業力向上に生かすことを突破口にして、学校全体の教育力、さらには家庭・地域の教育力に貢献していくことである。

「燃えるものから燃やす」「強み→活動→成果」というキーワードも大変役に立つ言葉である。本校ならではの一番の強みとは「小規模校」である。その強みを学校の教育活動の中でより活性化していき、さらに成果に結び付くように、個の児童をきめ細かく見つめて成長に貢献する。小規模校がゆえ、対話的で深い学びが困難だから対策を考える、という発想ではないのだ。

成果が学校の特色となるよう、校長が学校のビジョンを語り、全職員に共有・浸透させていく。学校組織の構造や学校運営の仕組の面からも、「燃えるところから燃やす」の意識で、学校を創っていききたい。

### 地域と共に育む

永平寺町吉野小学校長 広瀬 正秀

「ドタン！バタン！」

校長室横のロビーから大きな音がしてくる。低学年の子供たちが一輪車の練習を始めたのである。

吉野小学校では30年来一輪車の集団演技に取り組んでおり、5月の地区合同体育祭で披露し、保護者や地域の方々も楽しみにしている。低学年の子供たちも「さあ、次は私たちの番だ！」とばかりに張り切っているのである。最初は転んでばかりなのだが、上級生や上手な子が手をさしのべ、次第に上達していく。そんな光景を見ていると、下級生を思いやり上級生を頼りにする、とても純粋で微笑ましい子供たちの姿に心が和む。

子供のみならず、学校開放日や学習発表会に保護者の多くが参観し、地域の方には米や野菜の植え方、育て方を丁寧に教えていただいたり、見守り活動等で安全にも気を配ってもらったりしている。子供たちの心温まる関係は、家庭や地域の方々子供たちに温かく関わってきた積み重ねの結果ではないかと思えてならない。

学校は地域や保護者に支えられて初めて子供たちへの教育を充実できる。「よしのっこ」が将来への夢に向かって豊かな心とたくましい力を育てていけるよう、校長として地域とのつながりをより一層強めながら地域と共に子供を育む環境づくりに取り組んでいきたい。

### 小さな「ステキ」に心が動く子供の育成

あわらし細呂木小学校長 牧井 正人

「豊かな感性を育て、未来に輝く子」のテーマを掲げ、私は学校経営に取り組んでいます。これからはAIの時代とはいえ、豊かな体験活動を通して本物に触れ、自分の感性を育てていくことが重要であると私は考えています。では、どのようにすると感性が育つのか。私は、子供たちが見つけた「きれい」「ステキ」「キラリ」を紹介し合う活動を各学級でお願いしました。6月からは校長室にもその「ステキ」などを届けてくれます。誰も来なかった校長室に子供の声が響きます。小さな花が庭に咲いたことを話してくれる子、親子のおんぶバツを見つけ「かわいい」と思った子、夕陽を見たいと言ってお母さんとサンセットビーチに行ってきた子、キックベース大会で必死になって応援していた友達の姿に「美しい」と感動した子の話など、皆それぞれの感性を働かせて、心の目で見つけた小さな感動の芽を校長室にもってきってくれるのです。これから、この芽がどんな花を咲かせるのか楽しみです。

ランチコンサートの開催や金津創作の森美術館とのコラボ企画、全校での朝鑑賞など、今後も感性が育つ機会を提供するとともに、心が豊かになる環境づくりに努め、子供の見つけた「キラリ」に共感し、手を取り、喜びを分かち合える学校にしていきたいと思ひます。

## 言葉の重み

越前町立城崎小学校長 伊部 和浩

「校長先生!! おはようございます!!!」  
私の姿を見つけ、遠くから声をかけてくれた2年生の男児。

1学期の始業式の講話の中で、私は、次のような話しをしました。それは、

①誰にでも進んで挨拶のできる子、

②目標をもって最後までがんばる子、

になってほしい、ということです。上述の男児は、私の話を聞いて、さっそく実践してくれたのでしょうか。始業式の翌日に、大きな声で遠くから挨拶をしてくれたのです。

新学期が始まって3日目、彼は、まだ子供たちの顔も名前もろくに覚えていない私の期待に応えようとしてくれた、と嬉しい気持ちになりました。同時に、校長の口から発せられた言葉が児童に与える影響は大きい、という責任の重さも感じました。

児童にとって校長は、ともに過ごす時間は短く、担任の先生ほど身近な存在ではありません。だからこそ、その口から発せられる一言は重いのでしょうか。そう自分に言い聞かせ、毎日、子供たちに声をかけています。



## 心の豊かさについて

美浜町立美浜西小学校長 知場 克幸

本校は再編により、平成27年に美浜南小学校と美浜北小学校が統合してできた創立5年目の小規模校である。美浜町の西部に位置しており、北に若狭湾、南に矢筈山、西に久々子湖と自然豊かな景色が広がるのんびりとした環境にある。

先日、地域の方の協力を得て、5年生が学校の近くの田んぼで田植え体験を行った。子供たちはぬかるみに歓声を上げながら、泥だらけになって苗を植えていた。

田植えが終わりお礼を言おうとみんなが集まると、初夏の心地よい風が吹き、仕事をやり遂げた全員がすてきな笑顔になっていた。それを見ていた私もほのぼのとした気持ちとなり、周りののどかな環境と相まって心の豊かさまでも感じる事ができた。

4月に校長として着任して以来、「新学習指導要領全面实施」や「働き方改革」など、多くの課題に向けて日々精一杯努力してきたつもりである。しかし、今も友達のトラブルや不登校などいろいろな悩みを抱えて心を曇らせている子供がいる。そのような子供たちが、「笑顔で安心して学校生活が送れるようにしたい。」「豊かな心を持ち、誰に対しても優しくできる子になってほしい。」と、決意を新たにしたい一日となった。

## 万葉の里の宝物

越前市味真野小学校長 無量小路 宗洋

味真野地区は、流罪となった中臣宅守と、都へ帰りを待つ狭野弟上娘が、お互いを思って交わした「相聞歌」の舞台である。万葉集には2人の歌が63首もあり、その歌の中に味真野という地名が残っている。新元号「令和」が万葉集から引用されたことにより、万葉の里、味真野は、全国から注目され観光客が急増している。

本校勤務は教頭から数えて3年目になる。校庭の真ん中で、樹齢150年を超える桜の大木が、春夏秋冬の子供たちの活動を見守る。児童の挨拶が校舎内外に広がり、合唱の歌声はまるで中学生のような美しさで響き渡る。ある保護者がこんな話をされた。「この地区に嫁ぐ前、看護師として健康診断に来た時、廊下ですれ違う子供のあいさつが、びっくりするほどすばらしかったのをよく覚えています。」

思わず笑顔になる元気いっぱい挨拶、新任の教職員が感動で涙する合唱の歌声・表情、業間マラソンを全力で走る姿勢など、高学年がお手本になり、低・中学年はそれを超えていこうと頑張る。この伝統を受け継ぐ最高のサイクルは、なかなか簡単にはできない。本校ならではのこの「強み」を、温かい地域・熱い保護者の方々の協力を得て、ますます輝きを放つ「万葉の里の宝物」にできるよう、教職員も一丸となり力を尽くしていきたい。

## 児童と教職員の姿から学ぶこと

小浜市立西津小学校長 岡本 悟

朝7時40分、自家製プラカードを持って校門に立ち、登校してくる児童一人一人の顔を見て挨拶をします。声の大きさや視線、表情から心の状態を察することができます。校門に入ると班ごとに横一列に並び、100m先の児童玄関に向かって挨拶をします。児童玄関前では、最初は教員が挨拶を返し、企画委員の児童が登校すると、今度は児童間で、校庭を挟んで山びこのように大きな挨拶の声が飛び交います。児童玄関前には、自主的に挨拶を返す児童やハンドタッチで出迎える企画委員の姿があります。地域の方への挨拶も含めた振り返りを行った企画委員が、給食時に全校児童へ呼びかけます。挨拶の大切さを児童から学びます。

放課後の職員室からは、明るい声や笑い声が聞こえてきます。職員室では、一日を振り返って、授業や児童についての談義をする光景が目に見え、飛び込んできます。特に、若手とベテランの教員が談笑したり、真剣な表情で語り合ったりする姿に惹かれます。それぞれの教職員が探究心をもって主体的に働く姿、対話を通して学び合い、協働する姿に、日々頭が下がる思いです。教職員が心身ともに健康を維持し、モチベーションを高くして元気に教育に携われる職場の雰囲気をつくることも、私たちの大きな責務であることを感じさせられます。

### 編集後記

この度、「會報」109号を発行する運びとなりました。「會報」の発刊にあたりまして、会員の皆様には豊富な経験をもとにした貴重な原稿をお寄せいただき、お陰様で充実した内容となりました。深く感謝申し上げます。県小学校長会では昨年からはHPを立ち上げ「會報」も含め、県小学校長会の活動を随時掲載していきます。ぜひ、ご覧ください。今年度もこの「會報」が、会員相互の情報交換の場となり、また、校長としての役割を果たす一助となりましたら幸いです。